

錦江に生きる

（こ）にん目

唐仁原 浩一さん（昇陽自治会）



このコーナーでは、町内でこれから根を張っていくこうと頑張っている若者を中心に紹介していきます。
第5回目は、昇陽自治会の唐仁原浩一さんです。



炭窯の中に丁寧に木を並べる浩一さん

午前中に作業場を訪ねるとそこには、汗まみれで黙々と作業をする唐仁原親子の姿があった。平成15年に脱サラをし、炭焼き職人への道を選んだ浩一さん。当時起こった炭焼きブームを追い風にしようと考えていたが販路や原料を確保するルートがなかった。現実は甘くなかったという。しかし、そこから頑張り屋浩一さんの本領発揮。自ら販路を開拓し、今では受注も途切れることなく軌道に乗り始めた。

浩一さんは、業績だけを追及するのを嫌い、より良い炭を作れば売り上げは伸びるという信念のもと、原料になる木も自らが山を歩き、納得の行く木を見つけて直接持ち主から譲り受ける形を取っている。そのため、当然費やす時間も多くなる。今は一年中ほぼ休みなしに働き通している。休まない理由はただ単に業績拡大をしたいわけではない。釜を増設し、炭焼きを就職先の一つとして確立したいからで、地元に残りたい若者やUターンの一助になればと頑張っている。

浩一さんは、体がきつい時もあるが釜を開けて出来上がった炭を見る時の楽しみを思えば頑張れると言う。しかし、ひとつだけ耐え難い辛さがあるという。それは、一年中働き詰めのため、奥さんと三人の子供に家族サービスが出来ないことだ。もちろん家族のために働き続けているのだが、やはり申し訳ない気持ちでいっぱいだという。それでも、休まない理由は、奥さんが少しでも楽できるように、子供たちが炭焼きの仕事をしたいと言った時に一職人ではなく会社として成り立っているようにと家族を想う気持ちからである。

浩一さんは、強制はしないが子供たちが自ら炭焼き職人の道を選んでくれたらいいな。と照れくさそうに笑った。
子供たちが弟子入りしてくる日を夢見て、浩一さんは今日も炭を焼く。

錦江町

おもいで写真館



人力での岩の搬送作業

昭和30年頃の
岩の切り出し作業
（招魂墓）

提供
岩下尚之さん（馬場自治会）



水飲み場となる、切り出した岩の上で



完成した水飲み場（現在）

写真のご協力をお願いします

「錦江町思い出写真館」に掲載する写真を募集します。撮影時期・場所・状況等を付けて、役場企画課へ持ち込むか郵送ください。お借りした写真は責任を持ってお返しします。掲載は受付順とさせていただきます。